



コアグループOB会のみなさま 最近のコアグループの取り組み

2023年6月23日（金）

株式会社コア
執行役員 ソリューションビジネス本部長
金城 広



金城 広 (かねしろ ひろし)

1970年9月17日生

略 歴		手がけたもの
1993	株式会社システムコア (現 株式会社コア) 経理部 入社	
1997	株式会社システムコアを存続会社にグループ8社を合併	プロジェクト管理マニュアル
1999	上場準備室配属	取引・契約実務ガイドライン
		社内規程類、業務フロー
2002	東証2部 (現 スタンダード) への上場申請	企業行動憲章・企業行動基準
2003	3/20 上場	決算短信、決算説明資料
2004	社長室 (現 経営推進部) 配属	決算説明会、IR活動
		経営計画策定方針、予算書
2008	内部統制推進室 室長	J-SOX (組織、基準、規則、文書、運用)
2014	経営管理室 (現 経営推進部) 室長	事業計画書、同審査基準
2015	ビジネスソリューションカンパニー 営業統括部 部長	ソリューションリーフレット
2017	ソリューションビジネス本部 ソリューション企画部 部長 (現 事業戦略推進部)	製品ロゴ、会社案内
2020	(新型コロナウイルス発生、緊急事態宣言)	ソリューションメーカーとして 新規市場を対象に顧客開拓と ソリューション創出を進めています
2021	ソリューションビジネス本部 本部長	
	現在に至る	

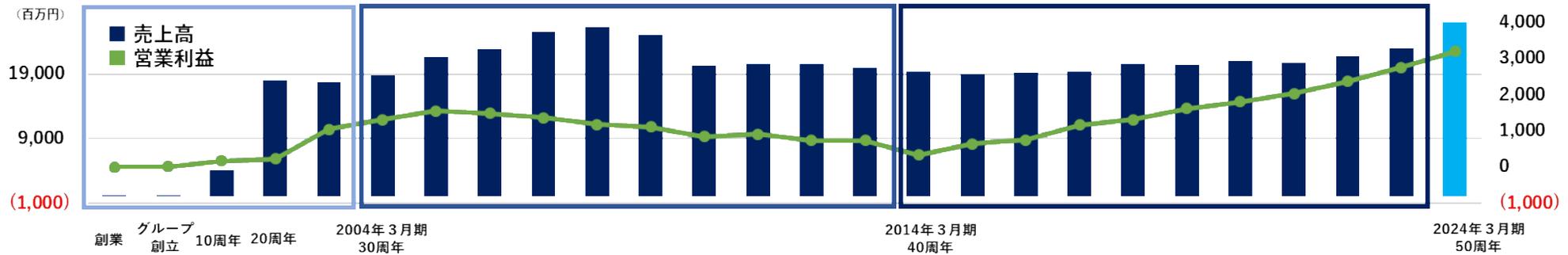
- 1 コアグループの歩みのふりかえり 3
- 2 最近の取り組み状況のご紹介 14
- 3 全員参加型のCTAC活動 43

1. コアグループの歩みのふりかえり

コアグループのこれまでの歩み

社業沿革

	1974年3月期～	2004年3月期～	2014年3月期～	2024年3月期～
旗印	マイコン開発のパイオニア	エンベデットのコア	ソリューションメーカー	ソーシャル・ソリューションメーカー
B M	MESI事業 ビジネス事業	エンベデット事業 ビジネス事業 プロダクト事業	ソリューションビジネス →コアビジネス S Iビジネス	未来社会Sol事業 産業技術Sol事業 顧客業務Int事業
顧客	SIビジネス：大手電機メーカー、金融、流通、鉄鋼、自動車			ソリューションビジネス(コアビジネス)： 公共、医療、エネルギー、IoT (AI)、メディア、GNSS、DXインサイト

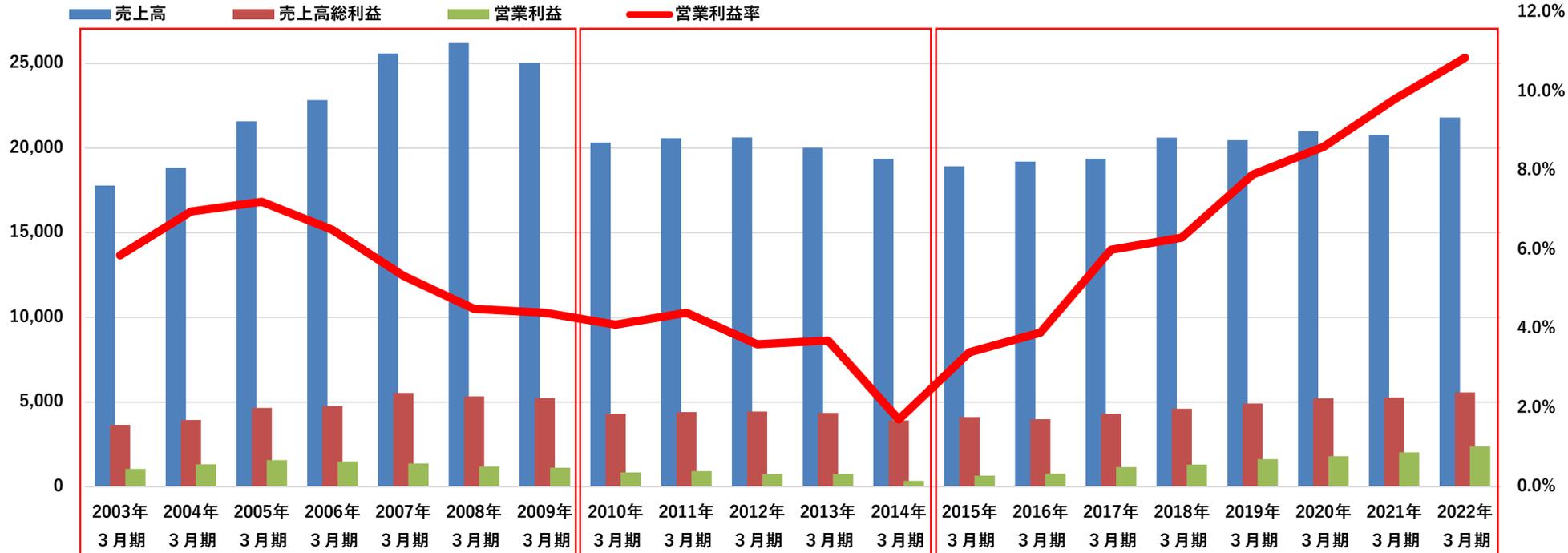


マイコン開発を原点として、自社の特徴を生かしたソリューションメーカーへ飛躍

株式公開からの歩み (2003年～)

株式上場後の業績推移

2008年9月のリーマンショック後、従来のビジネスモデルでは業績が低迷 2015年3月期より営業利益は右肩上がりで回復

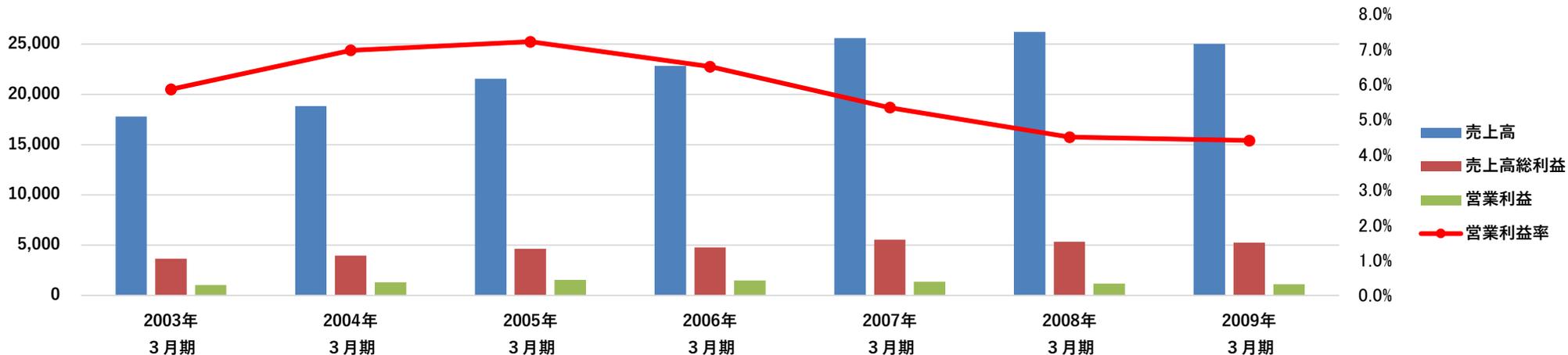


売上高	17,789	18,837	21,572	22,831	25,586	26,205	25,038	20,322	20,580	20,629	20,007	19,358	18,925	19,195	19,379	20,609	20,464	20,997	20,785	21,798
売上高総利益	3,652	3,947	4,650	4,774	5,530	5,332	5,232	4,311	4,409	4,434	4,345	3,904	4,100	3,980	4,310	4,597	4,907	5,215	5,260	5,567
営業利益	1,042	1,312	1,555	1,484	1,366	1,178	1,103	842	908	737	731	333	644	754	1,158	1,304	1,616	1,800	2,032	2,367
売上高総利益率	20.5%	21.0%	21.6%	20.9%	21.6%	20.3%	20.9%	21.2%	21.4%	21.5%	21.7%	20.2%	21.7%	20.7%	22.2%	22.3%	24.0%	24.8%	25.3%	25.5%
営業利益率	5.9%	7.0%	7.2%	6.5%	5.3%	4.5%	4.4%	4.1%	4.4%	3.6%	3.7%	1.7%	3.4%	3.9%	6.0%	6.3%	7.9%	8.6%	9.8%	10.9%

株式公開からの歩み (2003年～)

2003年3月期～2009年3月期

売上高が伸びる一方、2006年3月期から営業利益低下



	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	17,789	18,837	21,572	22,831	25,586	26,205	25,038
売上高総利益	3,652	3,947	4,650	4,774	5,530	5,332	5,232
営業利益	1,042	1,312	1,555	1,484	1,366	1,178	1,103
売上高総利益率	20.5%	21.0%	21.6%	20.9%	21.6%	20.3%	20.9%
営業利益率	5.9%	7.0%	7.2%	6.5%	5.3%	4.5%	4.4%

上場来最高売上高

コアブランドの新しい創生 (2006年3月期)

<3S-CTAC>+IFS (2007年3月期～2008年3月期)

Change Next Technology 2010 (2009年3月期)

経営方針

エンベデッドのコア (2006年3月期～)

<3S-CTAC>+IFS (2007年3月期～)

キーワード

出来事

2003年3月20日 東証市場第2部
2004年3月1日 東証市場第1部

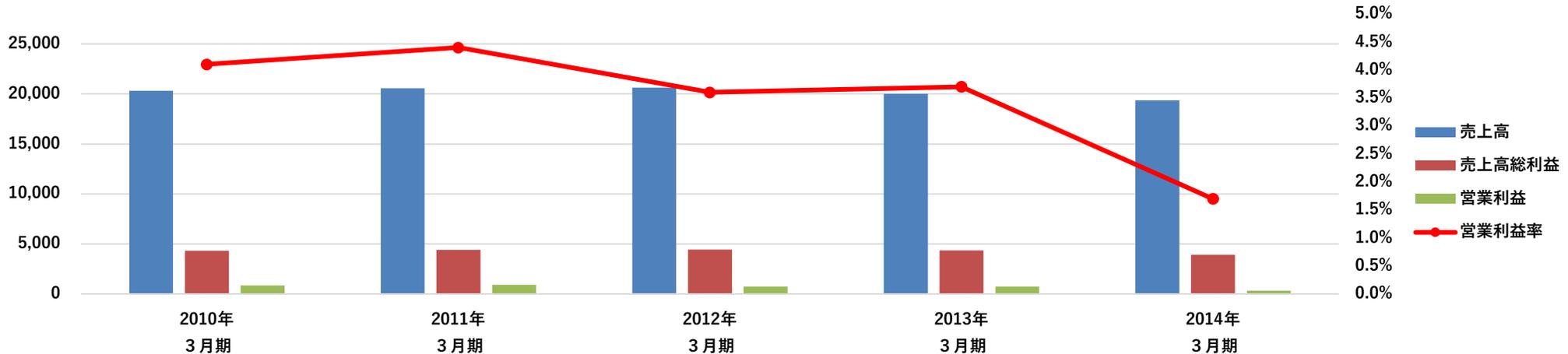
2006年3月期
事業セグメント名称変更

エンベデッドソリューション事業
ビジネスソリューション事業
プロダクトソリューション事業

株式公開からの歩み（2003年～）

2010年3月期～2014年3月期

2008年9月リーマンショック後、2014年3月期まで停滞



	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
売上高	20,322	20,580	20,629	20,007	19,358
売上高総利益	4,311	4,409	4,434	4,345	3,904
営業利益	842	908	737	731	333
売上高総利益率	21.2%	21.4%	21.5%	21.7%	20.2%
営業利益率	4.1%	4.4%	3.6%	3.7%	1.7%

上場来底値水準

経営方針

RE・NEW2009&Change Next Technology（2010年3月期）
 面から立体への進化（2011年3月期）
 新たな価値の提案（2013年3月期）
 情報サービス産業の核となる（2014年3月期）
 面から立体への転換（2012年3月期）

キーワード

リンケージ戦略（2013年3月期～）

出来事

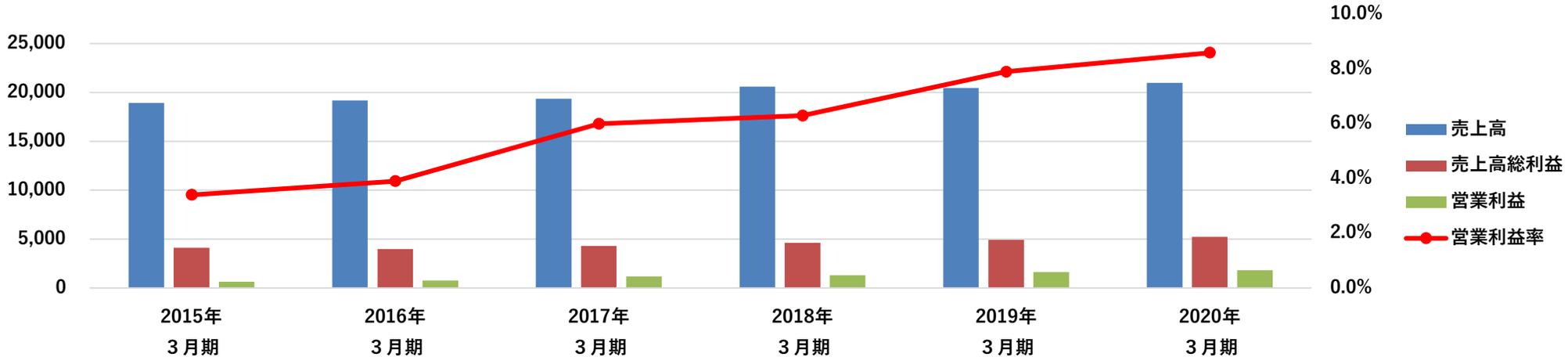
2008年9月
リーマンショックによる世界的金融危機

2013年5月
コアグループ創立40周年

株式公開からの歩み（2003年～）

2015年3月期～2020年3月期

2015年3月期からソリューションビジネスへ舵を切る
2017年3月期からコアビジネスを定義



	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高	18,925	19,195	19,379	20,609	20,464	20,997
売上高総利益	4,100	3,980	4,310	4,597	4,907	5,215
営業利益	644	754	1,158	1,304	1,616	1,800
売上高総利益率	21.7%	20.7%	22.2%	22.3%	24.0%	24.8%
営業利益率	3.4%	3.9%	6.0%	6.3%	7.9%	8.6%

産業革新を牽引するコアベンダーへ（2015年3月期） コアビジネス10³（2018年3月期～2020年3月期）
アップターン2015（2016年3月期）
アップターン2.0（2017年3月期）

経営方針

キーワード

重点推進6分野（2016年3月期～） ソリューションメーカー（2020年3月期～）
コアビジネス（2017年3月期～）

出来事

2015年3月期 ソリューションビジネス
事業セグメント名称変更 S I ビジネス

リーマンショック後からの事業シフト (2015年～)

SI

高収益性分野、強みとなる分野へのシフト

これまでのビジネス

ソリューション

市場No.1を目指した
指数関数的成長の追求

バリュー
チェーン

付加
価値

企画提案 要件定義 設計 開発 テスト 運用保守 要素技術化

SO定義 製品企画 提案 構築導入 保守サポート サービス コンサルディング

全国横断的な展開

オーナー側

強みの応用

蓄積

商材化

SOとして識別

全国どこでも均一なサービスを提供

40年以上の蓄積技術、ノウハウ

高付加価値なソリューションビジネス

第13次コアグループ中期経営計画

新たな価値へソリューションメーカー2.0 自社の特長を強みに

－ 顧客課題を解決する好循環プロセスの実現 －

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	結果
売上高	20,785	21,798	22,848	×
売上高成長率	-1.0%	4.9%	4.8%	
営業利益	2,032	2,367	2,743	◎
営業利益率	9.8%	10.9%	12.0%	
ROE	12.2%	12.5%	13.7%	◎

ビジネス構造改革により、利益が予算達成、売上高が未達



第14次コアグループ中期経営計画(2024年3月期～2026年3月期)

基本戦略 (1/2)

Vision **2026** ソーシャル・ソリューションメーカー

ICTで社会課題を解決し、価値を共創する企業として
SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）を実現

わたしたちが考える ソーシャル・ソリューションメーカーとは

自社の特長を最大限に活かしてICTサービス（技術と経験）で社会課題を解決します。
わたしたちは社員一人一人のエネルギーを結集し、持続可能な社会の実現に向けて新たな価値を共創することでSXを実現してまいります。



ソーシャル・ソリューションメーカーとは
自社の特長を最大限に活かしてICTサービス（技術と経験）で社会課題を解決すること

創業から受け継がれるコアグループの成長基盤

拠点分散型カンパニー制の強みを最大限活かす

安心できるサービスを安定して日本全国に提供し続ける

社員一人一人のエネルギーを結集、創造と挑戦でお客様の課題解決



新中計からの事業セグメント変更

わたしたちのビジネス

価値観の多様化・産業構造・事業環境



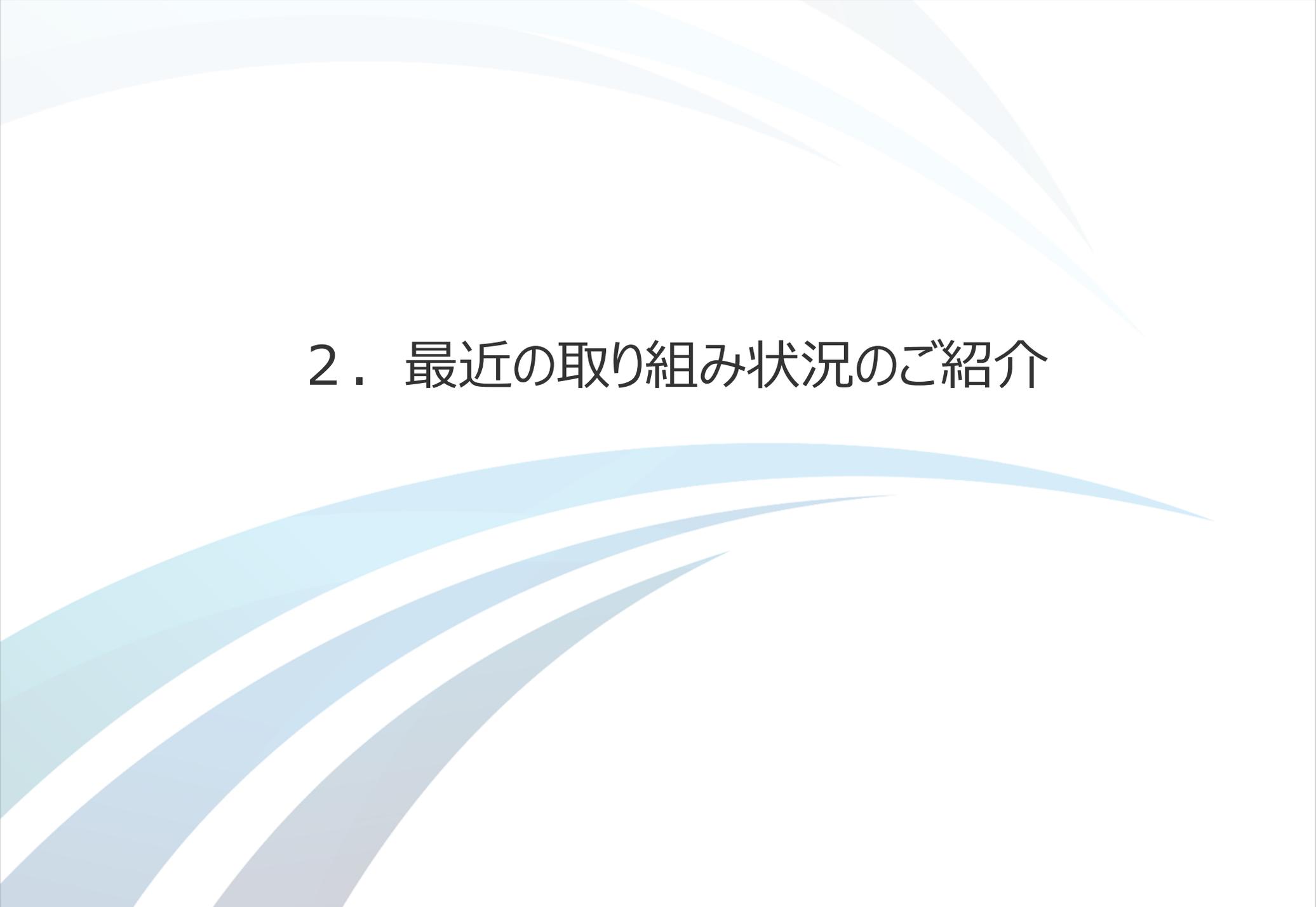
グロースエンジン

競争優位性の確保

ビジネスソース

顧客課題への対応





2. 最近の取り組み状況のご紹介



未来社会ソリューション事業

未来社会ソリューション事業

環境や生活基盤などの未来における社会課題に対し、
自社の特長を活かして高付加価値なソリューションを創出

- 環境や生活活動などの未来の社会における各種課題を解決する事業
- 社会課題解決スパイラルの実現とスピードアップ開発投資の実現



統括するソリューション事業



公共ソリューション
情報基盤プラットフォーム



医療ソリューション
電子カルテ
高齢者薬剤管理システム



エネルギーソリューション
制御資産管理

データを利活用し、新たな価値を創造

運用目線で必要な情報を収集・統制管理・分析することで、分散し埋もれていた知見を見つけ出し、新たなビジネス価値の創造に活用することができます。

特長



情報の収集・入力

紙文書の電子化や帳票イメージと同等の入力方式により、データを効率よく収集・入力。項目ごとに正規化して格納し、利活用しやすいデータが蓄積されるようになります。



情報の統制管理

収集し正規化された情報に対して柔軟な検索や定型的な統計を行うことで、管理業務と報告業務を効率化できます。



情報の分析

横断的なデータ検索と高度な分析ツールの活用によって、様々な角度からの分析が可能となり、新たな価値を発見するだけでなく、運用自体の効率化にもフィードバックできます。



HJI	WWE	PLD	EER	GRF	DMY
20,369 (+590)	890 (-20)	6,350 (-200)	10,985 (+580)	665 (-15)	6,800 (-115)
LJH	MJB	PON	NFR	UGH	OMJ
9,542 (-128)	2,609 (+35)	7,654 (+169)	6,522 (+122)	1,632 (-54)	3,652 (+184)
GMN	MMJ	JIT	KLM	CCX	EMH
5,211 (+154)	7,100 (-60)	7,150 (-150)	782 (+74)	1,901 (+101)	3,280 (-120)
WFF	HJM	QLC	LSD	SDH	GH5
12 (+12)	134 (+5)	2,022 (-18)	631 (+40)	6,287 (-57)	12,430 (+330)

ご提供 サービス・製品

情報基盤

Polisys

硬直しつつある情報システムを解きほぐし、「ムダ」を省き新しい価値を発見するデータ基盤。



地図 × AI

CoMDIS 地図AI

独自情報とオープンデータを掛け合わせて地図上に可視化し、過去・現在を把握し未来を予測。



IT資産管理

ITAM

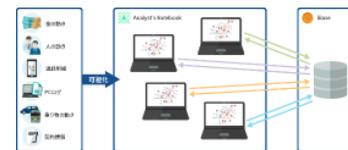
会社のあらゆる資産をまとめて管理することができるIT資産管理ツール。



データ分析

Analyst's Notebook・iBase 導入支援プラス

大量の断片情報を良質で実用的なインテリジェンスに変える分析ソリューション。





「その日の仕事が一目でわかる」医療・介護統合システム

「QOL-CP・人生の質・生活の質」の維持・向上を支援するクラウド型電子カルテ「i-MEDIC Plus++」を中心に、医療と介護を統合し、地域包括ケアに貢献する医療・介護ソリューションを展開しています。

提供ソリューション

i-MEDIC Plus++

i-MEDIC Plus++

「i-MEDIC Plus++」は、「QOL-CP・人生の質・生活の質」の維持・向上を支援するクラウド型電子カルテです。

i-MEDIC Plus RMC Remote Medical Care

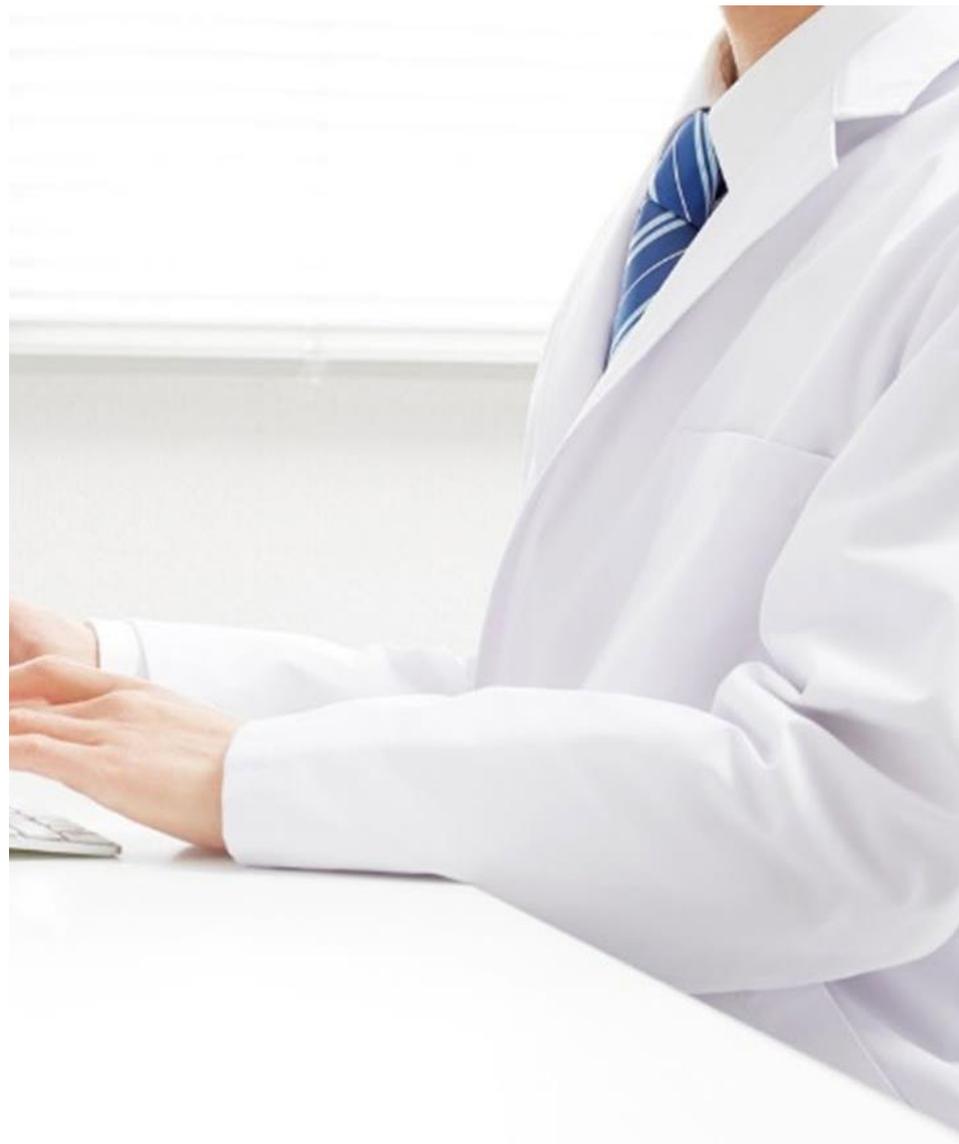
i-MEDIC Plus RMC

「i-MEDIC Plus RMC」は、オンライン診療、オンライン服薬指導が可能な新型コロナ対応型電子カルテソリューションです。



らくすり(らくすり)

「らくすり(らくすり)」は、専門医師の監修のもとで開発された高齢者の薬剤チェック機能を搭載したクラウドサービスです。





導入事例

i-MEDIC Plus 医療 医療法人社団耕雲堂 小林病院様

※こちらをクリックすると、動画をご覧いただけます。



医療法人社団耕雲堂 小林病院様にて、ご導入いただいたi-MEDIC Plus 医療について取材をさせていただきました。

小林病院の皆様からは、当サービスをご活用いただくことで、**医師・看護師・事務などの職員全員が患者様の背景を把握でき、患者様へのケアに一直線に進められることや、介護との連携に対応できる点が良い**とご評価いただきました。



導入事例

i-MEDIC Plus+
Remote Medical Care

医療法人パテラ会 月夜野病院様

※こちらをクリックすると、
動画をご覧いただけます。



医療法人パテラ会 月夜野病院様にて、ご導入いただいたi-MEDIC Plus RMCについて取材をさせていただきました。

取材にご対応された栗津医師からは、当サービスをご活用いただくことで、**コロナ禍においても、院内オンライン診療を可能とし、医療スタッフの感染リスク防止と罹患患者の不安解消を両立することが可能である**とご評価いただきました。



導入事例



医療法人緑の風 介護老人保健施設いこいの森様

※こちらをクリックすると、動画をご覧いただけます。



医療法人緑の風 介護老人保健施設いこいの森様にて、ご導入いただいた楽しくすりについて取材をさせていただきました。

取材にご対応された東医師からは、当サービスをご活用いただくことで、

楽しくすりを使うことで、ICD10に対応した疾患名を手入力ではなく、音声入力で楽に入力できるようになったことは大変便利。
管理医師の立場としては、薬剤をどのように減薬していくのか
ということを考えるときに、指定の名称に変更することはかなり負担。
そのため、そこをソフトを使用することで効率化できることは有益だと感じている。

とご評価いただきました。

ご提供 サービス・製品



電子カルテ
i-MEDIC Plus+ +



新型コロナ対応型電子カルテソリューション
i-MEDIC Plus RMC



高齢者薬剤管理システム
楽しくすり(らくすり)





エネルギーソリューションで持続可能な社会の実現に貢献

日本の電力事業における環境変化を踏まえ、エネルギー分野のシステム開発経験と知見を活かし「情報伝達」、「設備監視」、「セキュリティ」により、SDGs目標7に貢献するソリューションやサービスを提供します。

特長



情報伝達

システム間の情報伝送や協調・連携。



設備監視

設備の監視及び制御、状態の見える化。



セキュリティ

運用・管理面に対するサイバーセキュリティ対策。





産業技術ソリューション事業

産業技術ソリューション事業

顧客が有する業務課題に対し、IoT（AI）やGNSSなどの特化ICT技術を活かしたソリューションを提供

- IoT（AI）、GNSSなどの特化ICT技術を活かして業務に必要なシステムやサービスを提供して顧客課題を解決する事業
- ソリューション連携による新たなマーケット創造



統括するソリューション事業



IoT（AI）
ソリューション

クラウド型点呼システム



メディア
ソリューション

電子テロップ



GNSS
ソリューション

ドローンサービス
位置管理サービス



DXインサイト
ソリューション

RPA



クラウド
セキュリティ



センサーからクラウドまで、IoTによる産業の変革

「環境において（空気質）の変化を検知し、設備等の予兆保全を支援するソリューション」と「各種センサーをネットワーク経由で監視・制御する組込み活用ソリューション」をご提供しています。

提供サービス



運行の安全をIoTで支援 「Cagou IT点呼」

高度な認証とシンプルな操作を実現したクラウド型の点呼システムです。運転者が事業所から離れた場所でもIT点呼を実施し、安全に業務を開始・終了できます。



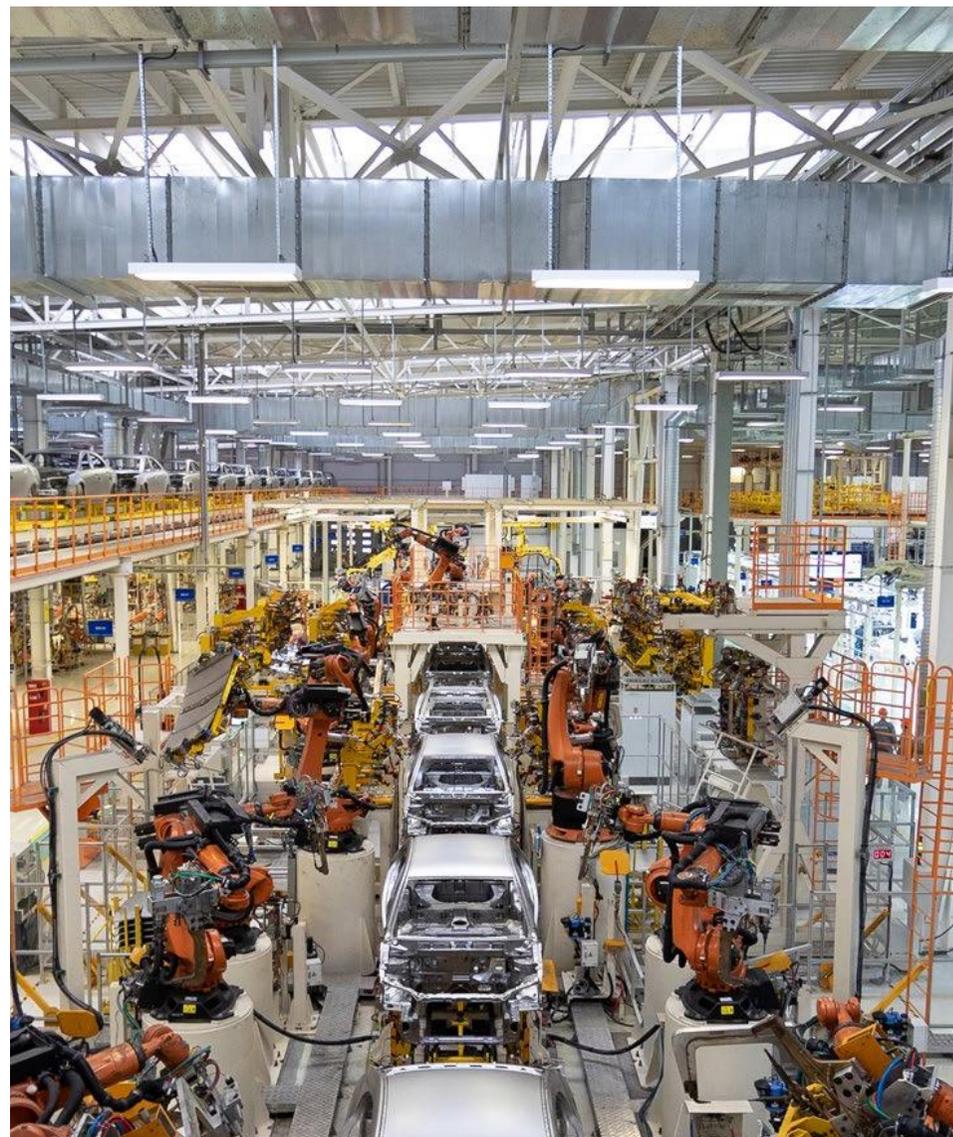
高精度な「においセンサ」 「Cagou」

高精度な「においセンサ」を活用することで、職人やベテランの感覚に頼っていた属人部分をICT技術で補完します。



「IoT × 組込み」

様々なベンダーのCPU・デバイスを用いた豊富な開発実績とノウハウを活用し、ネットワーク経由での機器監視・制御・アップデートのしくみづくりを支援しています。





ご提供 サービス・製品



におい見える化 Cagou

「におい」で遠隔監視・予兆保全を実現。
においセンサーを使ったIoTソリューションを
手軽にご導入いただけます。



クラウド型点呼システム Cagou IT点呼

IoT技術を搭載した高度な認証とシンプルな
操作を実現したクラウド型の点呼システム。



クラウド型飲酒検査システム Cagou IT点呼 for 白ナンバー

安全運転管理者・運転者双方の負担を極力
減らしつつ、コンプライアンス順守を支援する
飲酒検査・記録保管クラウドサービス。





01 工場臭気もれ、近隣住宅からクレーム

臭気対策

風の向きや、時間帯により工場から排出された臭気が住宅に流れ込み、近隣住民からクレーム
SNSの書き込みにも投稿され、会社イメージの失墜にも



02 作業場所での火災、爆発

安定操業

工場やゴミ処理場での火災、突然の爆発するリスク
小動物に配線をかじられ、配線がショート

03 作業場所での安全管理

室内保全

Co2量や硫化水素・アンモニア・一酸化炭素
が高い環境下での作業は危険



お客様プロフィール

中～大規模の某パルプ工場

担当者からヒアリング

- ・ 工場の1キロ圏内に住宅地がある
- ・ 消臭剤設備は設置済み（定期的な噴霧を実施）
- ・ 1時間おきに従業員が見回り
- ・ ハンディタイプの有毒ガス測定器は保有
- ・ 卵が腐ったようなにおいが発生する
- ・ 過去に近隣住民からのクレームあり
2キロ先の住民からもこの工場が原因だと言われた



課題

工場やごみ処理場の排水ダクトから**臭気**が漏れて近隣住民から苦情がある。

従業員がチェックして都度対応しているが、**近隣へ流出する前**に対策を自動化したい。

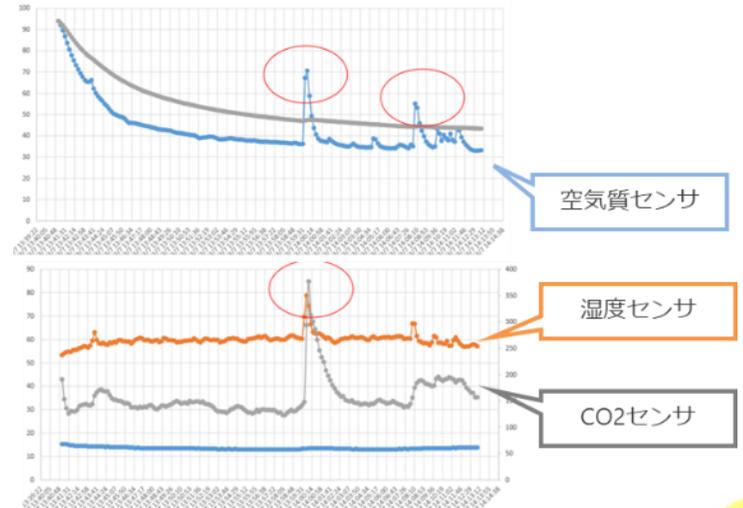
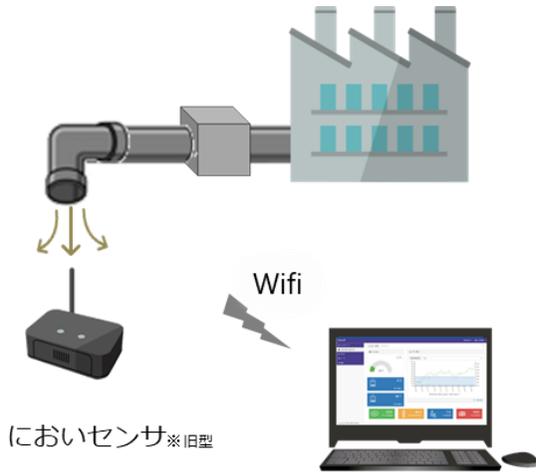


におい見える化
Cagou

工場臭気はダクトを通じて排出されるため、ダクトの途中に消臭のための薬品を設置されていました。

排気口に「**においセンサ**」を設置し
消臭装置を通過してくるにおいを測定

空気質の変化のピークを検知し、
異臭発生タイミングを可視化
湿度、CO2も同じタイミングでピークを検出



異臭発生を即座に検知し、においの変化時に閾値設定でメールで通知、近隣住民から苦情が来る前に対応が可能に
境界線外に流れるにおいの予測とモニタリングや、
将来的には消臭システムとの連携で臭気対策の完全自動化を実現





業種	分類	におい特長	におい種類	反応	課題解決と今後の課題
製造業	鉄鋼製造	硫化水素 VOC などの臭い COセンサ	製造現場 異臭	◎	工場のダクトと発生源と思う箇所にセンサを設置し異臭の変化をモニタリング。 外付けCOセンサ も設置し、においの変化を分析
畜産業	養豚	アンモニア臭、CO2	排便、飼料	◎	養豚場の臭気対策でセンサを複数台設置し、VOC・アンモニア臭・CO2の変化をモニタリング。近隣住民への臭気対策を実現 外付けアンモニアセンサ で絶対値のモニタリングを実施
製造業	食品製造	発酵臭、パンのにおい	イースト菌の 培養	◎	酸味のあるにおいで近隣住民への臭気問題を未然に対策する。屋外での計測のため、 防水BOX+空気の吸引 をして、においの変化をモニタリング においの数値が高くなった場合は担当者のスマートフォンにメールで通知
製造業	製紙 リサイクル	硫化水素 (硫化メチル)	製紙工場 のにおい	◎	卵の腐ったようなにおいが近隣住民へ流れ込み、クレームを受けた。そのため工場内と屋外にセンサを設置。今後消臭システムと連携し、 消臭を自動化 が課題 外付け硫化水素センサにより有毒ガスの漏出を絶対値でモニタリング
製造業	食品製造	VOC などの臭い	油臭	◎	油臭のするにおいが拡散することを完全に消臭したい。においモニタリングの検証によりにおいの 発生源を特定 し、消臭設備の導入を検討
製造業	化学製品	VOC などの臭い	排気ガス	◎	工場からの排気ガスの消臭対策と工場内の作業者の健康被害対策とし設置。CO2やアンモニアなど排気ガスのおいの変化をモニタリング 防爆エリアの有毒ガス等モニタリングの実現を目指しており、 防爆対応 が課題
製造業	食品製造	VOC などの臭い	調理臭、 ハンバーグ	◎	においセンサを実証で設置。閾値を移動平均より20%高い値として、超過した場合に担当者にメールで知らせる。今後は 消臭設備と消臭剤をセット提案
製造業	食品製造	硫化水素、VOCなどの臭い	排気ガス	◎	卵の腐ったようなにおいがしており、硫化水素やVOCの臭いをモニタリング。においと共に CO2センサの推移 も確認し、発生源の特定を行う



お客様導入事例 クラウド型点呼システム「Cagou IT点呼」

ヤマトマルチチャーター株式会社 様



「Cagou IT点呼」によって遠隔拠点を含めた全社の点呼業務を一元化。点呼データの分析によるドライバーの健康管理、事故防止対策も推進

1939年に京都で創業し、現在はクロネコの愛称で親しまれるヤマトグループの一員として、宅急便の幹線輸送業務を中心とした事業を展開するヤマトマルチチャーター株式会社。コンプライアンスの順守を徹底し、事業の持続的な成長を支える積極的なデジタル活用を推進する同社では、2022年6月に株式会社コアが提供するクラウド型点呼システム「Cagou IT点呼」を導入。これにより点呼業務の効率化に加えて、点呼データの分析による事故防止対策の強化などにも取り組んでいます。

導入前の課題

- ▶ 事業所単位で属人化しがちな点呼業務の効率化
- ▶ デジタルツールを使った点呼データの一元管理
- ▶ 点呼データを活用した安全管理、事故防止対策の徹底
- ▶ 業務のデジタル化によるさまざまな事業課題の解決

導入の成果

- ▶ クラウドを介したIT点呼で全社の点呼業務を一元化
- ▶ 「転送点呼」機能を活用した運行管理者の負荷軽減
- ▶ ドライバーとのコミュニケーションの活性化
- ▶ デジタルタコメーターとの連携による事故防止の徹底



ヤマトマルチチャーター株式会社
営業部長 兼 CSR部長
高橋 暢晴 氏

安心・安全な運行管理を支える効率的な点呼システムの再構築

日常生活で身近な宅配便に代表される運送業界の事業は現在、Eコマースによる通販事業の広がり、新型コロナによる宅需要の拡大、さらには慢性的な人手不足も加わって、大きな過渡期を迎えています。そして、この変化する事業環境の中でいかにして安心・安全な運行管理を実現するかは、すべての事業者に通ずる大きな課題です。その中でも、日々の運行を担うドライバーの点呼は、法令でも義務付けられている重要な安全管理項目の1つです。

ヤマトマルチチャーターでは、この点呼業務に早期からITを活用するなど、さまざまな取り組みを続けてきましたが、運送業界で高まるデジタル化の要請の中で新たな課題も生まれていったといいます。営業部長 兼 CSR部長の高橋暢晴氏は次のように話します。「ドライバーの点呼については、ビデオ通話による点呼システムを導入して、各事業所の運行管理者が直接点呼を実施してきました。しかし、この仕組みでは事業所ごとに運行管理者を配置しなければならず、また収集した点呼データの全社規模での活用という点で課題を感じていました」

また、同社の経営陣からは変化する事業環境への適応に向けて、点呼を含めたバックヤード業務の効率化、人的リソースの有効活用に向けた業務体制の見直しが求められていたことから、まず同社は課題が明確な既存の点呼システムのリプレースに着手することしました。

「この大きな目的としては、点呼業務の効率化による運行管理者の負荷軽減などが挙げられますが、事業におけるデジタル活用という観点では、点呼データを活用したドライバーの健康管理、事故防止の徹底という狙いもありました」（高橋氏）

クラウドを介した遠隔拠点のIT点呼で点呼業務を一元化

いくつかの候補の中からヤマトマルチチャーターが最終的に採用を決定したのは、コアが提供するクラウド型点呼システム「Cagou IT点呼」でした。選定の理由については、CSR部安全課長・CSR課長の道堂俊幸氏は次のように振り返ります。「最大の評価ポイントは、クラウド型の点呼システムであるCagou IT点呼であれば、タブレットなどを使って、離れた場所からでも複数の遠隔拠点のIT点呼が行える点です。こ

ヤマトマルチチャーター株式会社 様

お客様導入事例

「Cagou IT点呼の導入によって、私たちの事業の信頼性を支える運行管理の高度化が実現しました。デジタルの知見を生かした経営変革を支援してくれるコアさんには、今後もさまざまな提案を期待しています」

ヤマトマルチチャーター株式会社
高橋 暢晴 氏

れにより全社の点呼業務が一元化され、点呼データもクラウド上に集約することができました」さらに、Cagou IT点呼が柔軟なカスタマイズが可能な製品であることも、採用の大きなポイントとなりました。例えば、同社では点呼記録簿を別のシステムで作成しているため、点呼データを既存の点呼記録簿に合わせられることは必須の要件でした。「点呼記録簿については、ドライバーの睡眠時間など、国の要請に応じて新しい項目が加われば、仕様を変更しなければなりません。そうした要件に柔軟に対応できる点も、Cagou IT点呼を採用する決め手となりました」（道堂氏）

コア独自の「転送点呼」の機能で運行管理者の業務負担を軽減

ヤマトマルチチャーターにおけるCagou IT点呼の運用は、2022年6月からスタート。2023年1月現在は、大規模拠点である京都と大阪、さらに兵庫、奈良、滋賀の5拠点に導入されており、運行管理者は点呼業務の本部が置かれた大阪から、クラウド経由で各事業所のドライバーの点呼、またアルコーの呼気チェックなどを実施しています。「現在のCagou IT点呼の利用時間は早朝・深夜の時間帯が中心ですが、今後は日中の対面点呼もCagou IT点呼で実施し、フルタイムで利用する体制を整備しながら、未導入の小規模拠点にも順次展開していく予定です」（道堂氏）早朝・深夜の点呼では、Cagou IT点呼の独自機能である「転送点呼」が有効活用されています。これは点呼のタイミングで運行管理者が不在の場合、管理者がいる拠点にクラウド経由で点呼業務を転送できるというものです。これにより事業所単位で属人化しがちな点呼業務の課題が解消され、安心・安全な運行管理の基盤が整備されたことは、同社にとって大きな成果だといえます。



Cagou IT点呼のわかりやすいインターフェースで全社の点呼業務を一元管理

デジタルタコメーターとの連携による積極的なデジタル活用を推進

今後について、ヤマトマルチチャーターではCagou IT点呼をドライバーとのコミュニケーションツールとしても積極的に活用していきたいと考えています。「事故防止の徹底という観点から、ドライバーの体調管理のほか、走行記録で気になる点があれば注意を促すといった、各人に対するきめ細かい安全指導につなげていきたいと考えています。ここでは点呼データとデジタルタコメーターの走行記録を組み合わせた分析も必要になることから、コアさんの支援を通じて具体的な仕組みづくりを進めているところです」さらに同社では、事業全体におけるさらなるデジタル活用の推進に向けて、コアのさらなる支援を期待しています。「すでにコアさんの提案をきっかけに、経営情報をダッシュボード化するプロジェクトがスタートしています。運送業界はまだアナログな慣習が多いので、私たちにないデジタルの知見を生かして経営変革を支援してくれる点は、コアさんが他のベンダーと大きく異なる点だと評価しています」（高橋氏）Cagou IT点呼の導入によって、事業そのものの信頼を支える運行管理の高度化を実現し、新たな成長に向けたデジタル活用を加速するヤマトマルチチャーター。同社の取り組みは運送業界のデジタル化における貴重なモデルの1つとなるはずだと。

お客様プロフィール

ヤマトマルチチャーター株式会社

1939年の創業以来、60年以上にわたって宅急便の幹線輸送業務を中心とした事業を展開。「Oneヤマト」を理念に掲げるヤマトグループの一員として、企業の調達・生産・納品・回収・支払に繋がるサプライチェーン全体を最適化する物流ソリューションを提供しています。

<https://www.yamato-mc.co.jp/>

お客様ロゴ





お客様導入事例 クラウド型 飲酒検査システム「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」



株式会社IBUKI 様

「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」を導入して 法改正で義務付けられたアルコールチェックに対応 業務を最優先にしたコンプライアンスの徹底を実現

大手医療機器メーカーのビジネスパートナーとして、九州エリアで高度な医療機器の搬入・搬出、保守点検業務などを手がける株式会社IBUKI。地域密着型のビジネスの中で白ナンバーの社用車を利用する同社では、2022年4月に施行された改正道路交通法で義務化されたドライバーのアルコールチェックに対応するため、株式会社コアの「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」を導入。従業員に負担をかけることなく、出張先からでもリモートで対応できる柔軟な点呼体制を構築し、コンプライアンスと安全管理の徹底を実現しています。

導入前の課題

- ▶ 改正道交法で義務付けられた白ナンバー車両のドライバーの点呼、アルコールチェックへの対応
- ▶ 従業員の業務を優先した新たな点呼体制の整備
- ▶ 事業拠点を横断した点呼業務とデータ管理の一元化

導入の成果

- ▶ 出張先からでもリモートで点呼や呼吸チェックが可能
- ▶ 従業員の業務、スケジュールに対応した柔軟な点呼体制
- ▶ スマホを使った顔認証でストレスのない点呼を実施
- ▶ 事業の社会的信頼を支えるコンプライアンスの徹底



株式会社IBUKI
代表取締役
伊吹 謙一郎 氏

改正道路交通法で義務付けられた 白ナンバーのアルコールチェック

2022年4月に施行された改正道路交通法施行規則では、これまではアルコールチェックが義務付けられていなかった白ナンバーの社用車も、その適用対象となりました。飲酒運転の撲滅に向けた取り組みは大きな社会的意義がある一方、新たな法改正にどのように対応するかについて戸惑う事業者も少なくありません。九州エリアで高度な医療機器の搬入や保守点検などを手がけ、従業員が日常的に白ナンバー車両を利用する株式会社IBUKIも、こうした事業者の1つでした。代表取締役の伊吹謙一郎氏は次のように話します。

「当社は、主に医療機器の運送業務を担う長崎営業所と、医療機器のフィールドサービスを主業務とする福岡営業所の2拠点で事業を運営しています。長崎営業所は緑ナンバー車両の事業所として、すでにアルコールチェックを含めた運行管理体制が確立されていますが、新たな適用対象となった福岡営業所の白ナンバー車両について、いかに従業員に負担をかけずに点呼を行うかが課題となりました」
特に福岡営業所の従業員は白ナンバー車両

を使った出張が多く、対面の点呼ができないことも多いことから、法令に準拠した安全管理をどのように実現するかを検討していたところ、かねてから取引のあったコアから提案されたのがクラウド型飲酒検査システム「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」でした。「福岡営業所で点呼、アルコールチェックの対象となる従業員は9名です。出張が多いという業務の前提から、新たなツールはリモートでも簡単に点呼が行えることが必須の要件でしたが、Cagou IT点呼は私たちが求めるすべての機能を備えていました」（伊吹氏）

顔認証の機能で業務を優先した ストレスのないリモート点呼を実現

新たなツールの選定では、リモートによる点呼以外にも「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」の顔認証の機能が大きな評価ポイントになったといえます。「日頃の業務の中でも、さまざまなシステムに個別のパスワードを使ってログインするのは煩わしいものです。その点、顔認証に対応したCagou IT点呼は、車の中でもすぐにログインすることができ、従業員のストレスになることはありません。また、これにより安全運転管理者が目視で点呼を行える点は採用

株式会社IBUKI 様

お客様導入事例

「顔認証によってストレスのない点呼、アルコールチェックが実施できる「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」を導入したことで、従業員の業務を優先したコンプライアンスの徹底が実現しました」

株式会社IBUKI 代表取締役
伊吹 謙一郎 氏

の決め手となりました」（伊吹氏）
IBUKIにおいて、「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」の正式な運用がスタートしたのは2022年9月。対面の制約がなくなったことで、福岡営業所で白ナンバー車両を利用する従業員の点呼、アルコールチェック業務は飛躍的に効率化しています。「点呼のためのスケジュール調整や、無駄な待ち時間が発生しなくなったことは大きな成果です。福岡営業所の従業員は、業務に合わせて法改正前と同じように動くことができます。これは安全運転管理者である私にとっても同様です。結果的に、従業員も管理者も本来の業務を優先しながら、コンプライアンスを徹底できる体制が整っています」

「Cagou IT点呼」の全社導入による 拠点を横断した点呼の一元化も検討

「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」の運用開始から約半年が経過した現在、操作などに関する問題が点呼業務に影響を及ぼしたことは一切ないといえます。「使い易いといっても、スマホの顔認証に統一して、アルコールチェッカーを使って呼吸チェックをするだけのシンプルなものなので、導入後はすぐに現場に定着しました。安全運転管理者用の管理画面もわかりやすく、スマホアプリの感覚で使えるため、いわゆる業務システムの新規導入のようにヘルプデスクに問い合わせる必要もありませんでした」（伊吹氏）

「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」の運用が一段落し、すでにIBUKIでは次のステップに向けた新たな検討も開始しています。「コアさんからは一般事業者向け（白ナンバー）だけでなく、緑ナンバーの運送事業者向けの点呼システムも提供されています。長崎営業所では既存の点呼システムが老朽化して、点呼データの管理も紙のままで、運送事業者向けに開発されたこの製品であれば、電気化学式のアルコールチェッカーを使って確実な検査を実施し、コンプライアンスを徹底することができます。また、全社の点呼データをクラウド上で一元管理し、



電気化学式のアルコールチェッカーとスマホを連携させ、確実な検査を実施

分析活用も可能になります」（伊吹氏）
この環境が整えば、長崎営業所の運行管理者が不在のときでも伊吹氏が点呼を代行できるなど、全社の点呼業務の効率化はもたらせること、安全管理そのものの品質向上につながることは間違いありません。

最新のデジタル技術を活用した 「健康経営」のさらなる推進

IBUKIでは現在、健康経営の推進にも積極的に取り組みしており、今回の「Cagou IT点呼 for 白ナンバー」の導入成果を、デジタルを活用した従業員の健康管理にも拡大していきたいと考えています。「地域の皆様に医療機器をお付けすることが当社の事業ですから、今後は従業員の健康管理にもこれまで以上に配慮していく必要があります。ドライバーの運行管理に関しても、車載システムを使ったリアルタイムなアルコールチェックや居眠りの兆候の検知など、さまざまなソリューションが提供されるようになっていきます。当社としても、こうしたデジタルトレンドに追随していかなければならないと考えています。こうした点でも、コアさんには新たな提案を期待しています」（伊吹氏）
医療機器に特化したビジネスを通じて地域社会を支え続けるIBUKI。コアのソリューションを活用したコンプライアンスの徹底に向けた取り組みは、同社の事業の社会的信頼と従業員の健康を支える新たな価値を生み出しています。

お客様プロフィール

株式会社IBUKI

1955年に長崎県で運送事業者として創業。2013年以降は医療機器関連のビジネスに進出し、現在はキヤノンメディカルシステムズ株式会社のビジネスパートナーとして、高度な医療機器の保守点検・据付業務、搬入・解体撤去など、医療機器に特化したサービスを通じて医療現場に安心・安全を届けている。

<https://www.ibuki-go.com/>

株式会社IBUKI





価値ある位置へ

位置情報を活用した高精度測位ソリューション

位置情報を可視化することで、新しい価値を生み出すため、「Cohac[∞]（コハクインフィニティ）」は高精度測位ソリューションを3つのカテゴリーで提供しています。

カテゴリー



ドローン測量の作業効率改善

ドローンサービス

作業現場負荷の少ないドローン点検や測量。膨大な撮影データ解析の自動化・効率化を実現します。



高精度地図アプリ開発・システム構築

位置管理サービス

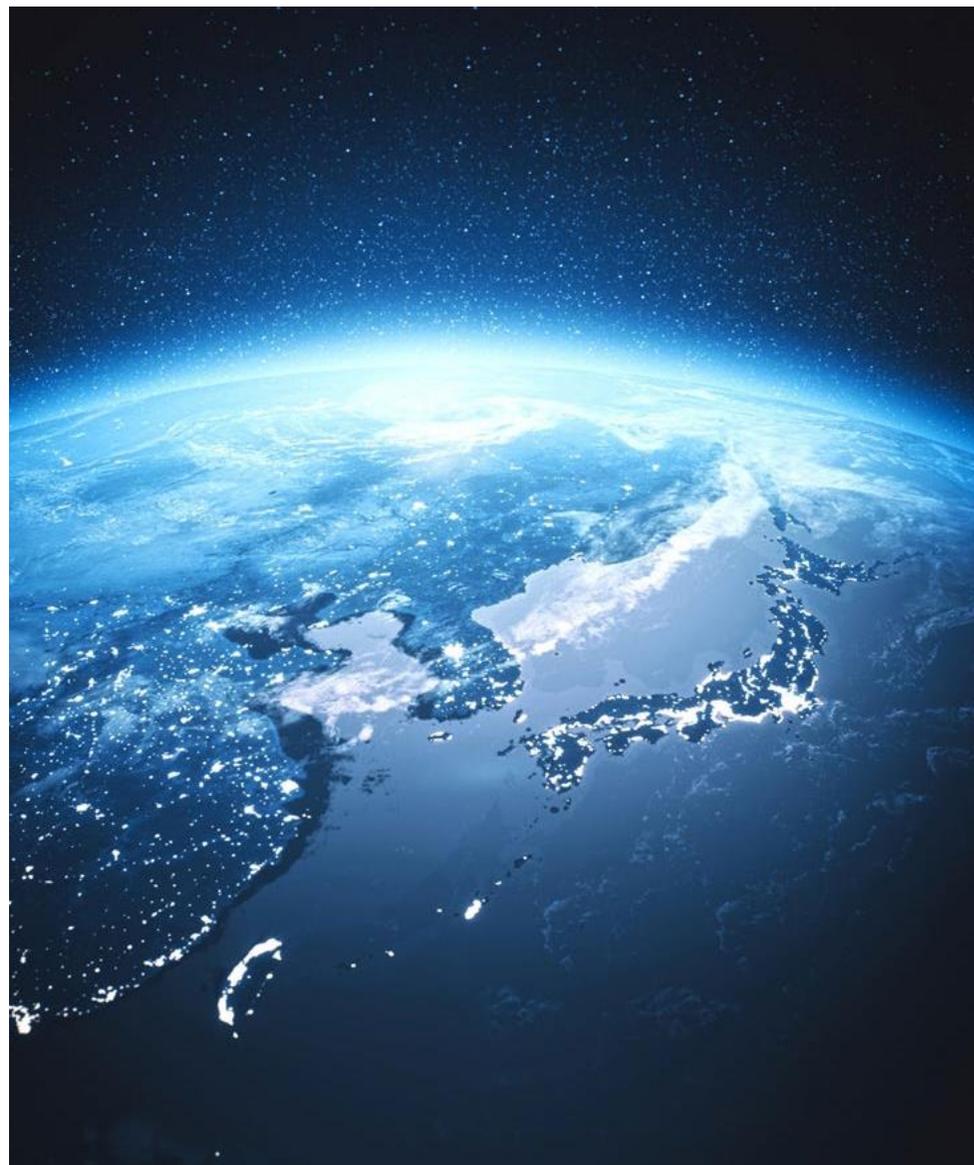
あらゆるモノの場所・動き・情報をリアルタイムに地図アプリ上で一元管理するサービスです。



みちびき対応製品

みちびき受信機のご提供

みちびき高精度測位対応受信機をはじめ各種GNSS受信機をご提供いたします。





ご提供 サービス・製品



みちびきCLAS対応センチメートル精度
小型GNSS受信機
Cohac∞ Ten

センチメートル級の高精度測位を小型軽量で実現。
わずか100gの受信機で、みちびきCLASによる
高精度測位が可能に。



CLAS・MADCOCA対応
防水・防塵GNSS受信機
Cohac∞ Ten+

国内だけでなく、アジア・オセアニア地域でも受
信可能。防塵・防水を実現し、過酷な環境にお
いてもセンチメートル級の高精度測位が可能に。



みちびき対応 マルチGNSS小型2周波受信機
Cohac∞ QZNEO

2周波高精度GNSS受信機で安定したサブメータ
測位が可能に。みちびきL1S(災危通報・SLAS
サービス)に対応。





提案紹介

目視外点検見える化ソリューション

高精度な位置情報を付加しながら撮影し、現場の3次元空間を構築することで、現地確認と同じ精度の点検業務を仮想空間上で実施できます。

導入前の課題

立ち入りが困難な場所や、人の目視で確認できない箇所も多々あり、点検範囲内の全てを点検することができず長年点検できていない場所がありました。

また、ドローンを導入してもドローンを目視できる場所まで移動する必要があり、かつドローンの操縦スキルも必要になります。



導入後の効果

GNSS(CLAS)の高精度測位により

ドローンの予備飛行が可能になるため、

- ・ 目視外におけるドローンの自動飛行
- ・ 現場への立ち入りが不要
- ・ 操縦スキルが不要
- ・ どこでも(圏外エリアなどでも)利用可能

さらに、**3次元地図を生成**することで

仮想空間上での点検業務

点検作業の人手削減

を可能としました。

+α



再現性の高い飛行撮影が可能な高精度位置情報を持つドローンを利用して構築した仮想空間に時間情報を付加することで、インフラ設備の長寿命化に向けた施設の経年劣化が把握できます。

目視外点検見える化ソリューション

道路の橋脚新設工事における状況把握のための点群データ作成

- 新設中の橋脚を3D点群データにて把握
- 橋脚等の運搬や施工時における導線の確認



新設中の橋脚の確認。



運搬用の重機が走行可能か。



送電塔とクレーンに干渉が無いか。



どの程度の伐採が必要か。

標定点（GCP）設置が不要な為、
運用中の道路を通行止めすることなく計測を実施。

現場への負荷を最小限に抑え、スムーズに測量を実現



提案事例

道路舗装検測(出来形測定)

手間のかかる検測作業をデジタルカメラ計測で効率化、更にGNSS位置情報を組合わせて作業実績の見える化をします。

導入前の課題

- 従来の水系下がり検測は、
- ・水系やスケールを人が手で持ち計測する
 - ・4~5名(水系、スケール、撮影)で実施
 - ・人手で帳票作成
- といった方法で実施していました。



導入後の効果

- デジタルカメラ3次元計測技術**を用いることで
出来形自動測定が可能になり、
- ・ターゲット設置と撮影を1名で実現可
 - ・専用ターゲットを撮影した写真から自動計算
 - ・帳票の自動作成

を実現し、

検測作業の人手削減

検測精度の均一化

を可能としました。



+α



みちびき対応マルチGNSS受信機から得られる位置情報を組み合わせて、作業実績を地図上に見える化することにより、出来形検測のデジタルエビデンスの確保を実現しました。

社会インフラ・土木現場でのその他利用シーン

建設資材の管理を効率化

- ・資材の保管位置を記録することで、現場全体で保有している資材の数量や、エリア毎の資材配置状況の把握
- ・資材の使用予定量に合わせた最適な配置をすることで、資材の移動にかかるコスト削減

【種別】鋼材
【規格】SD390
【呼び名】D13
【長さ】3.5
【数量】100
【納品日】yy/mm/dd

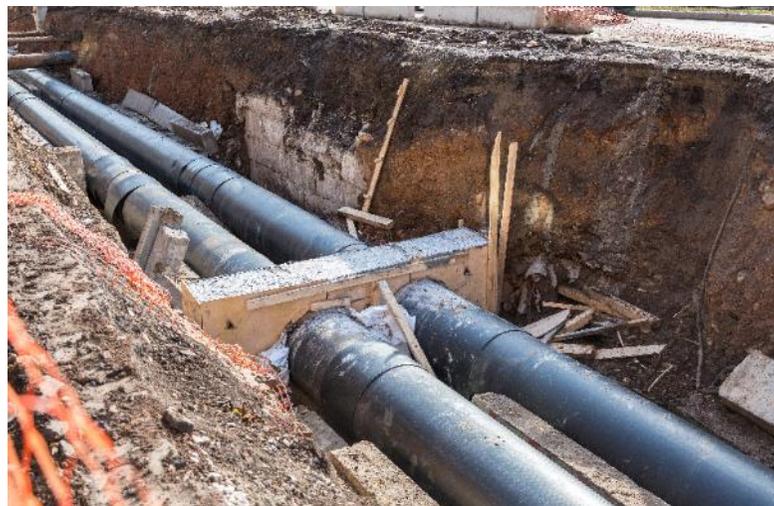
【種別】鋼材
【規格】SD390
【呼び名】D16
【長さ】3.5
【数量】200
【納品日】yy/mm/dd

【種別】結束線(U曲げ)
【線径】#18
【長さ】400
【数量】200
【納品日】yy/mm/dd

作業現場にある資材の保管位置まで管理

埋設物の掘り返し作業を効率化

- ・過去の設計資料をタブレットなどの画面上で確認可能
- ・掘り返す位置など作業データをタブレットで作業員と共有でき、連絡ミスや作業ミスの削減
- ・高精度な位置情報を付与した埋設位置情報を持っているので、掘り返し作業の失敗を抑制
- ・作業時間の短縮・手戻りの抑制・インフラの破損を予防



埋設物の掘り返し作業のミスを抑制



社会インフラ・土木現場でのその他利用シーン

物体の位置管理

- ◆ コンテナの位置管理
- ◆ 野外に保管してある電線ドラムの位置管理
- ◆ モータプールでの車の位置管理



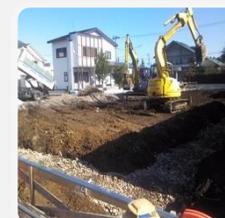
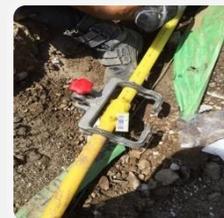
設備、埋設物の位置特定

- ◆ 雪で埋もれているメンテナンス用マンホール位置特定
- ◆ 埋設物の位置特定（掘削時の作業ミス削減）
- ◆ 森林に特定の樹木の位置特定



図面作成用位置データの収集

- ◆ ガス管、水道管等メンテナンス工事図面の道路線形基礎データ収集
- ◆ 建築物AR作成用基礎データ収集
- ◆ 建築用図面基礎データ収集



概要

- AIカメラによる**物体距離認識**および**認識物体の地図マッピング**により、工事現場での**資材管理**や**事故防止**などをAIでサポート
- **人の行動をAIで見える化**することで、現場の**入場管理**や**禁止エリアへの侵入検知**など**現場の見守り**をAIでサポート
- **従来システムの課題**を解決するためにシステムを**IoTエッジデバイス化** (小型・高精度・省電力・簡単)



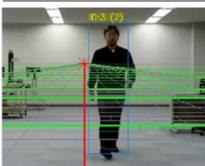
工事現場で人と重機の安全管理



基本機能

- **単眼カメラ**で認識の対象となる「人」や「車」までの**距離を計測**
- AIで物体の**サイズ**や**速度**などの稼働データを検出し、**地図上**に表示
- 学習済みデータを差し替えれば、**動物**や**乗り物**などにも対応

単眼カメラによる
物体距離計算



ディープラーニング
による物体検出

物体検出モデル:



MobileNet SSD
EfficientDet
CenterDet
YOLOv7
IntelModel

インテリジェント・
単眼カメラ

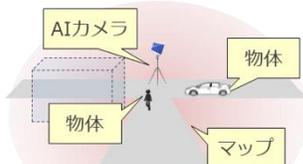


OpenVinoによる
CPU高速演算

AIエンジン: **OpenVINO**
小型化、省電力、GPU/FPGA未使用

ROSメッセージ

OS: Windows Linux macOS



グローバル座標へ
マッピング

活用事例

点検・測量・監視など幅広い活用領域

高所の点検・測量



高所（鉄塔・橋梁等）点検、測量など危険な場所での作業を回避

高速道路上の落下物監視



高速道路上の落下物を発見し、迅速な対応を行うことで安全を確保。

3. 全員参加型のCTAC活動

持続可能な未来を目指して

— コアのSDGsに対する取り組み —

持続可能な社会の実現に向けたコアグループのアプローチ

TopDown



第14次コアグループ中期経営計画

持続可能な社会の実現



全員参加型活動
(CTAC活動)



コアSDGs基金※の設立



社会課題の解決に直結する
ソリューションの創出

全員参加型活動による、利益に直結しない社会課題の解決を重視した取り組み



BottomUp

3S-CTAC+IFS

通称: CTAC活動

サステナビリティを重視したテーマを
企画・提案・実行する組織横断的な全員参加型の委員会活動。

旗印(CTAC) C(創造力) T(技術力) A(行動力) & C(挑戦)
行動原則(3S) S(スピード) S(シンプル) S(セルフ)
信条(IFS) I(アイデア) F(ファイト) S(サービス)

※コアSDGs基金: 全員参加型のCTAC会議で事業化承認されたものに対するの予算措置基金

CTAC コア文化Divでの継続活動

全員参加型 CTAC活動の取り組み

アイデアコンテスト「Q1グランプリ」

取り組み開始から今年で13年目を迎え、近年はサステナビリティがテーマに

	2020年 第10回 Q1グランプリ	2021年 第11回 Q1グランプリ	2022年 第12回 Q1グランプリ
テーマ	技術力で 社会と繋がろう	持続可能な 社会創りに貢献	持続可能な 社会創りに貢献
グランプリ	幼児見守りサービス 『ママのひとみ』 	『除雪出動判定システム』 	スマート ウォッチSGで クリーンな自己発電を 
準グランプリ	スマート 商品配置 『VMD Supporter』 	Blue Carbon ～海の森～ モニタリングサービス 	AIを活用した iPhone・Apple Watch による 安全運転支援システム 
特別賞	トイレの利用状況の見える化と 混雑分析による快適利用促進 	介護用ビデオ通話システム 『ビデオコールシステム』 	バス乗降データ収集アプリ 

第12回 Q1グランプリ 受賞アイデア

「AIを活用したiPhone・Apple Watch による安全運転支援システム」

3 すべての人に
健康と福祉を



ゴール3

すべての人に健康と福祉を

世界の道路交通事故による死傷者を半減させる

想定顧客

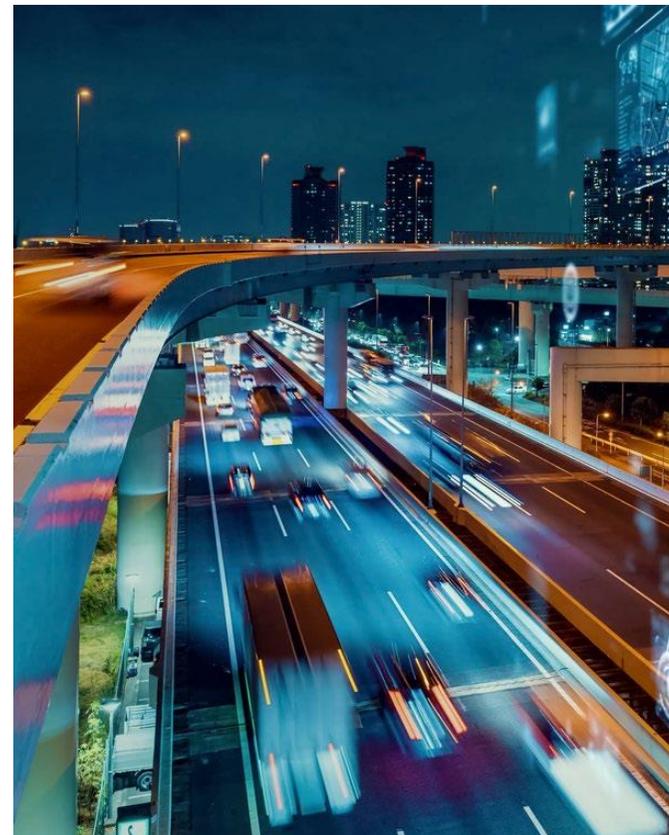
全国バス・タクシー・トラックなどの運送業者

顧客課題

運転手の漫然運転による事故の発生

概要

運転前、運転中、運転後、それぞれの場面において
居眠りリスクの検知・警告やデータの蓄積により
運転手の体調をいち早く把握し、事故を未然に防ぐ



居眠り運転による事故を減らし、持続可能な社会創りに貢献

株式会社コア

ソリューションビジネス本部

 03-3795-5122

 kanegon@core.co.jp

本紙に掲載の株式会社コアの経営戦略と業績値は、同社が外部公表した下記等の情報から何も引用・転載しております。
また、各ソリューションの導入事例に係る情報も、同社が顧客に了承のもとで外部の各メディア媒体に掲載した情報から引用・転載しております。